

核構造・崩壊データ専門部会
核構造データ W.G. サブグループ会合議事録

- 日 時 昭和55年8月27日(水) 13:30～
28日(木) 9:00～17:30
- 場 所 原研 東海研究所 研究2棟 322号室
- 出席者 橋爪, 天道(理研); 宮野, 大矢(新潟大); 喜多尾(放医研);
神戸(東工大); 松本, 大島, 田村(原研)
- 議 題 1. A = 127 のレフェリーの結果とその処理
2. A = 126 のレビューの結果
3. 評 価
A = 128
A = 129
A = 124

1. A = 127 のレフェリーの結果

質量数 125, 127 の評価は2月に終了して、ORNLへ提出してあったが、7月末に A = 127 のレフェリーの結果が送付されてきた。下記の指摘があった：

- (1) Normalization の数値は精度がよすぎる。またできるだけその誤差の評価をする。
- (2) $E\beta$, $I\beta$ は測定値があればデータとして採用する。
- (3) Ice, EKC, ELC, PKC, PLC, の測定値はコメントとして採録する。
- (4) Q値の決定に役立つデータ $E\beta$, PK/PL, β^+ /KC などの測定値があればコメントとして採録する。
- (5) MOMM 1, MOME 2 については Table of Isotops (7th edition) も参照する。
- (6) 半減期についても文献を網らする。

(7) 前回の NDS や Table of Isotopes (7th edition) との照合を行う。

上記問題点について検討し、GTOL, HSICC などのプログラムチェックを行ったうえで A = 127 の ENSDF を修正し終った。数日中に ORNL へ送付する予定である。

2. A = 126 のレビュー結果

質量数 126 の評価が一応終了した。松本, 喜多尾, 神戸の 3 委員がレビューを行った。問題点として、つぎの指摘があった：

(1) Ag, In

$E\beta$, $I\beta$ の記入もれ； In の 3 つのアイソマーに対するスピン・パリティのコメントを改良する；

(2) Sn

スピン・パリティの記入ミス；コメント不足；内部変換係数に関するセカンドカードの不足

(3) Te

$I\gamma$, Logft の参照値のミス

(4) Xe, Cs, Ba

Cs, Ba の放射平衡での崩壊スキームの研究で論文中の β 分岐比の数値とその参照方法に問題点が見つかった。論文中の $\beta^+ / I\gamma$ からの $g_s \rightarrow g_s$ の β 分岐比を正しく計算すると 10% 位の差違が生じた。この正しい値を使って logft を再計算する必要がある。

上記の問題点を修正した上で 9 月 10 日頃に ORNL へ送付する予定である。

3. 評 価

(1) A = 128 については個々のデータセットがほゞできた。HSICC GTOL, LOGFT プログラムで評価し、次回から Adopted levels, gammas に入る予定である。

- (2) A = 129 についても個々のデータセットがかなりできており, HSICC, GTOL, LOGFT プログラムの評価をはじめ。
- (3) A = 124 については文献の主要なもののコピーができ, 各人の分担をきめた。従来の NDS からのデータセットを活用し, 修正を進める予定である。

4. 次 回